

学年	高校2年	教科	英語	科目	英語表現Ⅱ	単位数	3
教科書名	Revised POLESTAR English Expression II			副教材名	<ul style="list-style-type: none"> ・高校リード問題集 B (教育開発出版) ・スクランブル英文法・語法 4th Edition (旺文社) ・総合英語 FACTBOOK (桐原書店) ・Random Challenge 600 Advanced (いっいずな) 		
コース・クラス	特進文系						

1. 目標

年度末までに高校で学習すべき文法事項をすべて網羅するとともに、その定着・完成を図ること。また、問題を解けるだけでなく、既習事項を駆使して書くことによるアウトプットを進めていくこと。2 学年からは英語表現は 1 単位増単のため、既習事項の復習・定着にも力を入れていく。

2. 授業のねらい

(1) 1 学期中間試験にむけて

- ・接続詞のなかでもとくに「副詞節を導く従属接続詞」の種類と用法を重点的に学習する。
- ・前置詞は、根本にあるイメージを捉え、物理的／非物理的な感覚の両方から英語のセンスを磨く。

(2) 1 学期期末試験にむけて

- ・比較は、これまでに学習しなかったやや比較表現の種類と用法を網羅していく。
- ・代名詞は、不定代名詞を完全に定着させるとともに、再帰代名詞も含めすべてを網羅していく。

(3) 2 学期中間試験にむけて

- ・否定表現のなかでもとくに「慣用表現」と「否定語を用いない否定表現」の理解と定着を図る。
- ・名詞・冠詞については、日本語には馴染みのない概念や捉え方について、英語のセンスを磨く。

(4) 2 学期期末試験にむけて

- ・形容詞・副詞は、確認を中心とし速やかに終われるようにする。
- ・動詞の語法についてしっかりと復習していくなかで、既習の文法項目（不定詞／動名詞／SVO to do／SVOC／使役動詞／知覚動詞など）について定着させていく。

(5) 学年末試験にむけて

- ・分詞の復習をしつつ、分詞構文の種類と用法を理解していく。
- ・関係詞の復習をしつつ、複合関係詞の種類と用法を理解していく。

(6) 年間を通じて

- ・1 年次の既習事項の確認テストを実施し、その定着を図る。

3. 授業の進め方

- (1) 予習よりも復習（宿題）を重視する。また、模擬試験や入試問題を適宜取り扱う。
- (2) 定期的に小テスト実施し、定着の度合いを図る。
- (3) 状況に応じて、問題集等の副教材を使用する。

4. 学習上の留意点

- (1) 授業用ノート、問題集を必ず用意して授業に臨むこと。
- (2) 「復習ノート」を別で用意し、つまづいた文法事項を蓄積していくこと。
- (3) 提出物の期限は必ず守ること。

5. 定期試験

- (1) 授業内容に基づいて出題する。
- (2) 定期試験の範囲 (予定)
 - 1 学期 中間試験 : 接続詞・前置詞・既習ランダム出題
 - 1 学期 期末試験 : 比較・代名詞・既習ランダム出題
 - 2 学期 中間試験 : 否定表現・名詞・冠詞・既習ランダム出題
 - 2 学期 期末試験 : 形容詞・副詞・動詞の語法・既習ランダム出題
 - 3 学期 学年末 : 分詞構文・複合関係詞・既習ランダム出題

6. 評価方法

定期試験、提出物 (宿題)、小テストなどをもとに総合的に評価する。

7. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	接続詞・前置詞 (中間試験まで)	定期試験 小テスト 提出物	接続詞の種類と用法を理解する。 前置詞のイメージを捉える (復習)。
	5			
	6	比較・代名詞 (期末試験まで)		比較表現の種類と用法を理解する。 代名詞の種類と用法を理解する。
	7			
二学期	9	否定表現・名詞・冠詞 (中間試験まで)	定期試験 小テスト 提出物	否定表現の種類と用法を理解する。 名詞・冠詞の日本語にはない概念を理解する。
	10			
	11	形容詞・副詞・動詞の語法 (期末試験まで)		形容詞と副詞の働きと用法を理解する。 動詞の語法について定借させる (復習)。
	12			
三学期	1	分詞構文・複合関係詞 (学年末試験まで)	定期試験 小テスト 提出物	分詞構文の種類と用法を理解する。 複合関係詞の種類と用法を理解する。 ※ライティングの課題を継続。
	2			
	3			

※ シラバスの内容 (時間や事項) については、理解度やその他の都合により変更することもあります。